

紀皇女の御歌一首

三九〇番

軽の池の 浦廻行き廻る 鴨すらに 玉藻の上に
ひとり寝なくに

造筑紫観世音寺別当沙弥满誓の歌一首

三九一番

とぶさ立て 足柄山に 舟木伐り 木に伐り行き
つ あたら舟木を

大宰大監大伴宿禰百代の梅の歌一首

三九二番

ぬばたまの その夜の梅を た忘れて 折らず来
にけり 思ひしものを

满誓沙弥の月の歌一首

三九三番

見えずとも 誰恋ひざらめ 山のはに いさよふ
月を 外に見てしか